

小児・AYA世代のがん患者さんへの対応について

AYA（アヤ）世代とは、Adolescent&Young Adult（思春期・若年成人）といい、15歳から39歳の患者さんが対象となります。小児期に好発するがんと成人期に好発するがんがともに発症する可能性がある年代であり、肉腫など、AYA世代に多い特徴的ながんもあります。そのため、AYA世代のがんの診療には、年代に応じた多職種が連携して診療を行うことがとても重要となります。また患者さん一人ひとりのライフステージのニーズに合わせた支援も必要となってきます。

1. AYA世代サポートチーム

主治医だけではなく、がん治療専門医、泌尿器科医、産婦人科医、看護師、医療ソーシャルワーカー、など専門的知識を持ったチームで患者さんご家族のサポートを行っています。

2. 就労支援について

がんの治療が就労に影響し、不安を感じる方に対して医療ソーシャルワーカー、社会保険労務士による相談もおこなっています。

3. がん治療と生殖機能の温存について

がん治療の中には、生殖機能（妊孕性）に影響を及ぼすものがあります。

妊娠や出産を希望される患者さんにとっては心配される問題の一つとなることから、がん患者さんの生殖機能への影響などの相談をお受けし、ご希望に沿って生殖医療専門機関へ円滑に受診できるようなお手伝いをしています。

4. 小児がん患者の長期フォローアップについて

小児がん拠点病院である名古屋大学医学部附属病院やその他の医療機関と連携し、フォローアップを行っています。